

## ◎ 2016年度同門会理事長賞受賞



滋賀医科大学 呼吸器外科  
大塩 恭彦 (平成 14 年卒)

この度はこのような栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

私たち呼吸器外科のラボでは肺がん、乳がんに対する樹状細胞ワクチン療法を先進医療で行っていた関係で、如何にしてがん免疫治療の抗腫瘍効果を高めるかを主なテーマとして研究を行ってまいりました。というのも樹上細胞ワクチン療法をはじめとするがん免疫治療の効果は未だ十分に満足できるものではないからです。その要因のひとつとして、これらの治療法が基本的には腫瘍細胞のみをターゲットとしていることが挙げられます。

腫瘍組織は単に腫瘍細胞の集団ではなく、様々な腫瘍間質細胞との複合体を形成し、これらが複雑に関係し合っているため、より効果的な治療法の確立には、がん細胞とともに間質も阻害することが重要ではないかと考えています。今回着目したのは主要な間質細胞のひとつであるがん間質線維芽細胞で、制御性 T 細胞や骨髄由来抑制性細胞の誘導を介して担がん宿主の抗腫瘍免疫応答を抑制する性質を持っていること、がん間質線維芽細胞を阻害することで併用した樹状細胞ワクチンの抗腫瘍効果が相乗的に増強することをマウスレベルで確かめたものが、今回賞を賜りました、私の学位論文の内容です。

大学院生としての研究環境を与えてくださった花岡先生、手塚先生、浅井先生に感謝いたしますとともに、細胞培養の基礎から動物実験、複雑な腫瘍免疫応答の評価法など実際の実験の指導を頂きました寺本先生に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。院生時代に得た思考の過程がその後の臨床現場での出来事に新たなものの見方を与えてくれたことは、何物にも変えがたい財産となりました。このことが後輩にも伝えられるように頑張りたいと思います。

現在は臨床に復帰し病棟医長としての立場を任せて頂き、まだまだ未熟で日々の業務をこなすことで精一杯ですが、今回の受賞を機に一度基礎研究にも力を入れて参りたいと思います。また微力ではございますが、同門会のさらなる発展にも尽くしてまいる所存ですので、今後も変わらぬご指導ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い致します。